

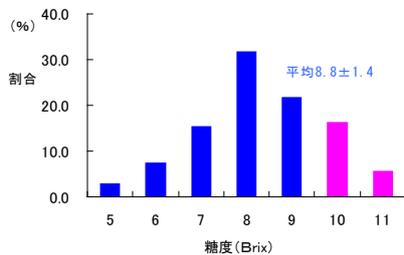
愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集（研究者情報）

氏名	山本 和博	専攻	食料生産学専攻
		コース	食料生産経営学コース
職名	准教授	専門分野	農業経営学
メールアドレス	Yamamoto.kazuhiro.tn@ehime-u.ac.jp	その他連絡先	
研究課題	農産物における消費者ニーズと商品開発手法の開発		
キーワード	消費者ニーズ、商品開発、官能調査、販売実証		

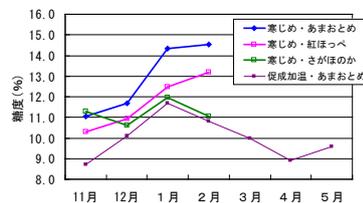
研究内容：

イチゴの官能調査による糖度基準に基づいた商品（寒じめイチゴ）を開発して、量販店や百貨店での販売実証により小売価格と販売数量を推定し、体系的なマーケティング技術を生産現場に移転する研究を実施した。具体的な商品開発手法は以下のとおり。

- ①官能調査によるイチゴの糖度基準の解明
女性パネラー20名による「甘い」と評価する基準：糖度(Brix)が8～9は25.7%、9～10は40.9%、10～11は60.0%、11以上は80.0%が甘いと評価 ⇒糖度11%以上のイチゴが必要
- ②松山市場に出荷されたイチゴの糖度分布の解明
松山市場では周年をとおして、糖度11%以上のイチゴは全出荷量の10%程度
- ③糖度基準に基づいた商品開発
糖度11%以上のイチゴは寒じめ栽培法(愛媛農水研開発)が有効
- ④量販店や百貨店での販売実証
寒じめイチゴをM百貨店等で販売実証し小売価格980円/パック(300g)を確認
- ⑤体系的なマーケティング技術の生産現場への移転
JAおちいまばりに技術移転し、「あま恋いちご」としてブランド確立



イチゴの糖度分布



寒じめ栽培の糖度(2006, 愛媛農水研, 福田)



イチゴの官能調査



M百貨店での販売実証試験



「あま恋いちご」ブランド

出典：『農業経営研究』第47巻第4号(2010.3)

提供可能な資源・技術・その他

・農産物における消費者ニーズと商品開発手法のノウハウ

プロジェクト研究希望テーマ

・農産物を主体とした消費者ニーズの把握と商品開発